

道徳通信



小方学園

道徳通信

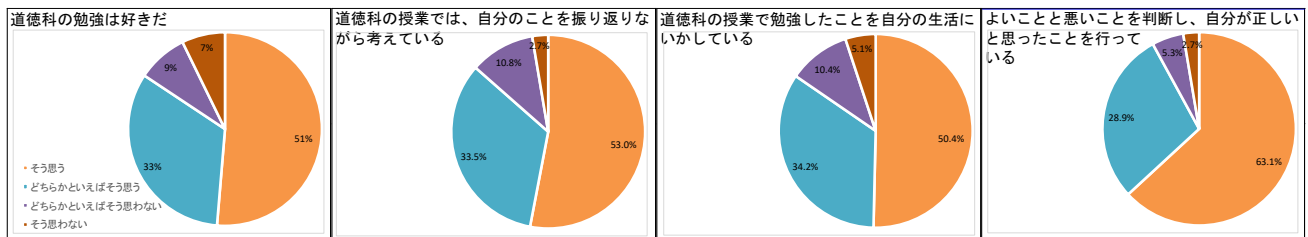
令和6年6月

担当 道徳教育推進リーダー 西

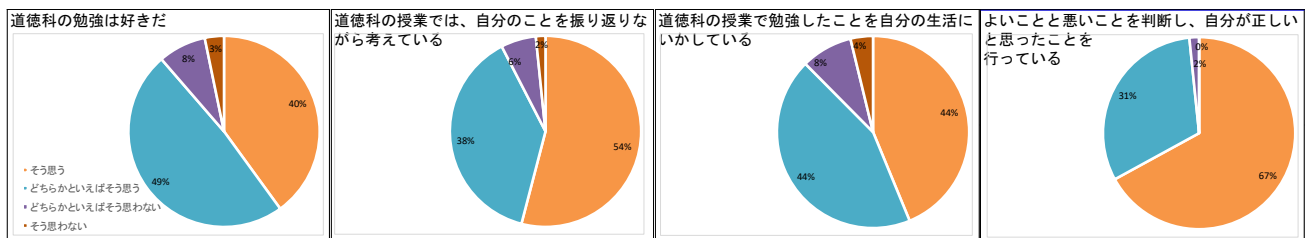
小方学園は、本年度「道徳教育推進拠点事業」2年目となり、昨年度に引き続き道徳教育に関する研究を進めています。研究主題を「道徳的行為をしようとする内面の力を育てる道徳科の授業の在り方～道徳的価値観を形成する発問づくりを通して～」と設定し、道徳科の授業における効果的な発問について、担任の先生方と話し合いながら日々研究を重ねているところです。

本年度初旬に児童生徒に実施した道徳教育に関するアンケートでは、肯定的評価が「道徳の勉強は好きだ」84%（小学校）・89%（中学校）、「道徳科の授業では、自分のことを振り返りながら考えている」87%・92%、「道徳科の授業で勉強したことを自分の生活にいかしている」85%・88%、「よいことと悪いことを判断し、自分が正しいと思ったことを行っている」92%・98%などとなり、昨年度より道徳に関する意識が少しではありますが高まっていることが分かりました。今後は、これらの評価がさらに高まるよう、道徳科の授業はもちろん、学校の教育活動全体を通して、児童生徒の道徳性を育てていきたいと思ひます。

【小学校】



【中学校】



小中お手紙交流

5月22日（水）に、小学校と中学校の交流活動の一つである「お手紙交流」がありました。ペア学年の小1と中3、小2と中1、小3と中2それぞれで事前にかいたお手紙を交換し合い、自己紹介やじゃんけん、にらめっこなどをして交流を深めました。



今回のお手紙交流は、運動会前ということもあり、ペア学年の運動会の練習の様子を見に行くなどして相手意識をもち、相手のことを思いやって、運動会へ向けての励ましのお手紙をていねいに書いていました。相手を「思いやる」とは、相手の気持ちや立場を自分の事に置き換えて押し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることです。今後も、さまざまな活動を通して「思いやり」の心を育てていきたいと思ひます。